

第 3509 図



まめ科

とびかずら

Mucuna sempervirens Hemsley
(=*M. japonica* Nakai)

中支に分布し、肥後、内田村の相良観音境内樹林中に産する常緑藤本で、蔓莖は径40cmに達する。小枝は無毛で3小葉を有する葉を互生し、小葉は長楕円形、先は急に鋭尖、基部は円く、全縁、革質、上面は深緑色、光沢あり、長さ7-14cm、側小葉は基部歪形。5月に幹上に総状花序を側出垂下し、長さ7cm許の暗紫花を10数個着ける、小梗は1.5cm許、萼筒は広く短く、外面に短毛があり、旗弁は卵形で反曲直立し、翼弁は長楕円形で真直に伸び、基部は淡色、竜骨弁は刀剣状に反り、翼弁より長い。和名トビカズラは古い伝承に基き、遠方よりこの植物が飛来したことを意味する。

第 3510 図



まめ科

したん(紫檀)

Pterocarpus Santalinus L. fil.

印度ビルマの降雨林中に生ずる常緑小喬木、高さ7-15mに達する。葉は互生、羽状複葉、小葉は3-5個、卵形又は広楕円形、凹頭又は凸頭、濃緑色にて、上面光沢があり、下面に圧毛があり、総状花序は頂生又は腋生、10数個の淡黄色長さ1cm許の蝶形花を開く。花梗は短く、萼筒は鐘形、短毛を被り5齒があり、花弁5個、有爪、竜骨弁の他は反転する。雄蕊は10個、子房は有柄、有毛、柱頭は糸状、莢は扁平、略円形、径3-4cm許、周縁に広翼があり、波状縁をなし、基部不同で先端は横方であり、柄は長さ1cm許。通常径1cm許の黒褐色、平滑の種子1個を収め、熟しても開裂せず、周材は白色、心材は黒紅紫色、硬樫。世の所謂紫檀材は本種の他、同属の他種、及び同じマメ科に属するDalbergia属などの心材を含む。

第 3511 図



まめ科

もだま

Entada phaseoloides Merrill

九州屋久島以南よりマレーシア、太平洋諸島の海岸林の内部に生ずる大形の常緑藤本。葉は2回偶数羽状複葉で互生し、長さ20-30cm許、羽片は2対、小葉又2対、対生し、小葉は平滑無毛、革質、至長楕円形、鋭頭、円脚、短柄を有し、葉軸の先端は普通2岐する巻鬚となる。花は瘦長な穂状花序の上に密開し、無柄、汚黄緑色、長さ6mm許、萼筒は広歪形、5裂、花弁は5個狭い筒形、長さ4mm許、雄蕊10個は離生する。莢は大形、長さ屢々1m以上巾8cmに達し、木化して硬く垂下し、扁平で、1種子ごとにくびれがある。種子は径5-7cm、扁平、褐色で光り、子葉の間に空所があり、長く漂流して発芽力を失わない。本邦の海浜に稀に打上げられ、古人がこれを薬玉と称して薬籠などを製した。

はかまかずら

Bauhinia japonica Maxim.

本州(紀伊)、四国(土佐)、九州、琉球などの海岸附近の森林内に自生する常緑の藤本で、幹は太く褐灰色を呈し、縦溝がある。幼枝は葉と共に赤褐色の毛があるが、後無毛となる。葉は薄い革質で長柄をもって互生し、円心形、先端は2裂し、幼葉の葉は深く裂け、裂片は漸鋭頭、老枝の葉はやや浅く裂けて鋭頭鈍端である。巻鬚は扁平で分岐せず、初夏の候、茎頂又は葉腋に赤褐色の短毛が密生する総状花序を直立して生じ、多数の淡緑黄色の花を開く。花は径約2cm、萼筒は鐘形、先端5裂、花弁は5個、円形、有爪で大小があり、外面に密毛がある。雄蕊は10個、長短があり、中3個は長く超出する。莢は扁平、長楕円形、短毛があり、種子2-3個を有する。和名は葉形を袴にたとえたもの。

第 3512 図



まめ科

第 3513 図

ぎんようあかしあ

一名はなあかしあ

Acacia Baileyana F. u. Mueller

濠洲原産の常緑喬木で、高さ15m許に達する。近年、暖地に栽植して庭樹となし、又切花とされる。枝を繁く分ち、小枝は蒼白を呈し、2回偶数羽状複葉を互生する。葉は全体に白粉をおびて蒼緑色を呈し、長楕円形で、羽葉は3-4対、対生し、線状長楕円形、小葉は8-18対あって左右に規則正しく並び、狭線状披針形、鋭頭、微凸端があり、基部は鈍形、左右不同である。早春、満枝に開花し、花序枝は枝端の各葉腋より斜開して出で、多数の有柄、鮮黄色、径1cm弱の穂状花序をつける。萼は鐘形、齒縁があり、花弁は小形、数10個の雄蕊は長く超出し、糸状の花柱を有する1雌蕊がある。和名銀葉アカシアは蒼緑色の葉に因んだものである。



まめ科

第 3514 図

そうしじゅ

Acacia confusa Merrill

台湾の恒春半島及びフィリッピンに自生する常緑喬木で、時に暖地に栽植され、又温室にて観賞される。高さ数mに達し、枝を疎に分ちて葉を互生する。葉身状のものは実は葉柄に当る部分で、左右から扁平され刀剣状、全縁、先端は漸次鋭尖し、基部は狭まり、革質で、数脈が縦走している。偶数羽状複葉をなす真の葉身は発芽間もない幼苗にのみ見られる。枝端よりやや下方の葉腋から細柄のある球状、径1cm内外の花序を1-2個生じて、黄金色の花を密に開く。萼は鐘形、花弁は小形、多数の雄蕊を超出して生じ、糸状の柱頭を有する1雌蕊がある。花後、扁平で長さ数cmの莢を結び種子数個を生ずる。



まめ科